

會 務

第 21 卷 第 2 號 昭和 10 年 2 月

通 常 總 會

昭和 10 年 2 月 15 日午後 5 時より東京市麴町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開く。

出席者 73 名。

會長久保田敬一君議長席に着き開會を宣し下記の如き昭和 9 年度事業報告並に決算報告に對し出席會員の承認を得たり。

昭和 9 年度事業報告

理 事	久 保 田 敬 一
同	米 元 晋 一
同	草 間 偉

昭和 9 年度事業の概要左に報告す。

1. 會 合

昭和 9 年 2 月 15 日午後 4 時 30 分より東京市麴町區丸ノ内 3 丁目 4 番地帝國鐵道協會に於て通常總會を開く、出席者 101 名にして會長眞田秀吉君議長席に着き事業及決算報告を爲し終つて會長の挨拶ありたり。

前記以外本年度中に於ける會合は役員會 17 回、通俗講演會 4 回、20 周年記念學術講演會 2 回、20 周年記念祝賀會 1 回、編輯委員會 12 回、用語調査會 1 回、座談會 1 回、20 周年記念各委員會 19 回、維新以前日本土木史編纂委員會 9 回、關西地方風水害調査委員會 2 回なり。

2. 役員改選及職員就任

定款第 22 條に依り會長眞田秀吉君、副會長大河戸宗治君、常議員黒田武定君、竹股一郎君、三浦七郎君、山口昇君退任に付定款第 21 條及規則第 15 條に依り會員の投票を以て改選を行ひ當選したる役員の氏名左の如し。

會 長	久 保 田 敬 一君
副 會 長	草 間 偉君
常 議 員	池 邊 稻 生君
同	河 原 直 文君
同	金 森 誠 之君
同	佐 藤 利 恭君
同	鈴 木 雅 次君
同	永 田 民 也君
同	野 口 寅 之 助君
同	古 川 淳 三君

昭和 9 年 2 月 22 日規則第 16 條及第 29 條に依り主事、主計、編輯長、編輯委員の推薦を行ひ左の通り就任せり。

主 事	古 川 淳 三君
-----	----------

主 計	佐 藤 利 恭君
編 輯 長	田 中 豊君
編 輯 委 員	青 木 楠 男君
同	龜 田 素君
同	末 森 猛 雄君
同	永 田 年君
同	中 原 壽 一 郎君
同	野 口 誠君
同	福 田 武 雄君
同	星 野 茂 樹君
同	堀 越 一 三君

常議員那須章彌君は昭和 9 年 5 月死亡し常議員に缺員を生じたるも都合に依り定款第 23 條に依る補缺選舉を省略せり。

3. 委員會の設置並に委員の依囑及各種委員會の經過

昭和 9 年 2 月, 20 周年記念委員會に於て記念事業として會館設立の成案を作製報告ありたるを以て同委員會を同月解散せり。

昭和 9 年 3 月, 20 周年記念會館設立準備委員會を設置し委員に井上秀二君外 5 名を依囑し同年 4 月會館設立に關する調査報告ありたるを以て同月解散せり。

昭和 9 年 3 月, 20 周年記念土木工學論文抄録編纂委員會を設置し委員長に中川吉造君委員に田中豊君外 56 名を, 記念講演委員會を設置し委員長に那波光雄君を, 土木學會史編纂委員會を設置し委員長に名井九介君を依囑し昭和 9 年 10 月出版物の刊行並に講演會終了したるを以て同月解散せり。

昭和 9 年 3 月, 日本工學會用語統一調査委員會コンクリート構造關係用語選定本會選出特別委員に阿部美樹志君, 川口利雄君, 宮本武之輔君を依囑せり。

昭和 9 年 4 月, 20 周年記念會館に關する委員會を設置し委員に井上秀二君外 5 名を依囑し同年 6 月會館擴張に關する調査報告ありたるを以て同月解散せり。

昭和 9 年 5 月, 20 周年記念祝賀準備委員會を設置し委員長に眞田秀吉君, 副委員長に井上秀二君, 茂庭忠次郎君, 小川織三君委員に衣斐清香君外 9 名を依囑し同年 10 月祝賀會終了したるを以て同月解散せり。

昭和 9 年 5 月, 日本工學會用語統一調査會本會選出委員那須章彌君死亡に付後任として山田博愛君を依囑せり。

昭和 9 年 6 月, 日本工學會工業教育調査委員會本會選出委員に藤井眞透君を依囑せり。

昭和 9 年 10 月, 機械學會機械用鋼索規格制定委員會本會選出委員に橋口行彦君を依囑せり。

昭和 9 年 10 月, 關西地方風水害調査委員會を設置し委員長に中川吉造君, 副委員長に青山士君, 平井喜久松君, 委員に荒木文四郎君外 61 名を依囑せり。

其の他コンクリート調査會, 用語調査會, 世界動力會議大堰堤國際委員會日本國內委員會, 土木建築士法案調査委員會, 維新以前日本土木史編纂委員會, 日本標準型鋼調査委員會等は引續き調査中なり。

4. 會誌其の他の發行

昭和 9 年中に於て土木學會誌第 20 卷第 1 號より第 12 號まで 12 冊, 20 周年記念土木工學論文抄録並に會

員名簿を發行せり。

5. 本會事務所の移轉

昭和9年7月29日、本會事務所を東京市麹町區丸ノ内3丁目6番地に移轉せり。

6. 名譽會員、前會長の薨去

昭和9年1月22日、前會長日下部辨二郎君薨去せらる本會は弔詞及花輪を靈前に呈し哀悼の意を表せり。

昭和9年1月28日、前會長名譽會員古市公威君薨去せらる本會は弔詞及花輪を靈前に呈し哀悼の意を表せり。

7. 故名譽會員古市公威君墓所へ玉垣寄贈

昭和9年12月、本會は故名譽會員古市公威君墓所へ工費金450圓を以て玉垣一式を建設寄贈せり。

8. 登記並に申請事項

昭和9年2月15日の通常總會に於ける理事の改選及資産の總額を金153,151.80圓と變更の件は同年2月20日其の登記を了せり。

昭和9年8月8日、事務所移轉に伴ふ定款中變更を主務省に申請し同年8月21日認可ありたり。

昭和9年8月29日、事務所移轉に伴ふ定款中變更の登記を了せり。

9. 建議事項

昭和9年6月25日、土木技術界の勳勞者中より貴族院勸選議員を詮衡奏請せられむことを内閣總理大臣及各國務大臣に對し建議し並に貴族院議長及關係貴族院議員に對し考慮方を依頼せり。

10. 土木賞牌贈呈

土木學會誌第17卷第5、10號第18卷第6號第19卷第7、10號に登載せる會員工學博士福田武雄君著“*Theorie der Roste und ihre Anwendungen*”と題する論文に對し昭和8年度第一土木賞牌を贈呈せり。

11. 職員の表彰

昭和9年10月22日、20周年記念に當り10年以上勤続職員北村嘉太郎君外5名に對し表彰狀の授與並に記念品を贈呈せり。

12. 會長ラジオ講演

昭和9年10月24日、會長久保田敬一君“國民生活より觀たる土木工學”の演題にてラジオ講演をなせり。

13. 記念祝賀會

昭和9年10月26日、本會創立20周年記念祝賀會を上野精養軒に於て開催し來賓鐵道大臣外42名會員233名の來會ありたり。

14. 見學視察旅行

昭和9年3月24日、第1回見學會として川崎市東京電氣株式會社工場並に明治製菓株式會社工場、東京製綱株式會社工場の見學を行ひ會員116名の參加ありたり。

昭和9年5月12日、第2回見學會として山口貯水池の見學を行ひ會員111名の參加ありたり。

昭和9年6月9、10、11日、第20回視察旅行として鐵道省信濃川發電所工事並に新潟港の視察旅行を行ひ會員98名の參加ありたり。

昭和9年7月7日、第3回見學會として横濱港並に東京港埋立地の見學を行ひ會員110名の參加ありたり。

昭和9年9月29日、第4回見學會として内閣印刷局瀧野川工場並に理化學研究所の見學を行ひ會員46名の參加ありたり。

昭和 9 年 10 月 27, 28 日兩日, 20 周年記念見學會として第 1 日は東京地方專賣局業平工場並に新帝國議事堂建築を, 第 2 日は東京市中央卸賣市場並に東京築港, 臺場及東京市芝浦下水處分場の見學を行ひ第 1 日は會員 320 名, 第 2 日は會員 295 名の参加ありたり。

昭和 9 年 11 月 18 日, 第 31 回視察旅行として富士五湖並に箱根の視察旅行を行ひ會員 28 名の参加ありたり。

15. 關西支部事業の概要

昭和 9 年度中關西支部に於ける會合は役員會 9 回, 大會 1 回, 記念事業委員會 4 回, 講演會 2 回, 晚餐會 3 回, 見學會 1 回なり。

16. 會 員 數

昭和 9 年度中に入會者は會員 1027 名 (内准員より轉格したる者 723 名), 准員 821 名 (内學生員より轉格したる者 54 名), 學生員 309 名, 特別員 3 名, 合計 2160 名にして退會者は會員 12 名, 准員 16 名, 學生員 1 名, 合計 29 名, 死亡者は名譽會員 1 名, 會員 12 名, 准員 7 名, 合計 20 名なり。

而して昭和 9 年 12 月末日に於ける現在數は會員 2121 名, 准員 1947 名, 學生員 400 名, 特別員 3 名, 賛助員 21 名, 合計 4492 名なり。

昭和 9 年度決算報告 (昭和 9 年 1 月 1 日~同年 12 月 31 日)

理 事 久 保 田 敬 一
同 米 元 晋 一
同 草 間 偉

經 常 部

収入の部

會 費	34,261.34	土木史編纂費編入金	4,000.00
利子及雜收入	8,558.59	前年度繰越金	4,937.80
會費一時納付金	200.00	合 計	51,957.73

支出の部

事 務 費	20,521.36	基金へ編入金	200.00
會 誌 費	24,738.72	事業資金へ編入金	55.13
工 學 會 費	200.00	土木史編纂費	1,829.73
臨 時 費	1,938.26	翌年度繰越金	388.44
支 部 交 付 金	1,500.00	合 計	51,957.73
事 業 費	586.09		

臨 時 部

収入の部

20 周年記念事業費編入金	12,562.14	合 計	20,822.14
20 周年記念廣告料	8,260.00		

支出の部

20 周年記念事業費	18,848.59	20 周年記念廣告募集費	1,973.55
------------	-----------	--------------	----------

合 計	20822.14		
基 金 計 算			
収入の部			
前年度繰越金	138 468.15	利 子 收 入	5 552.95
基金へ編入金	200.00	合 計	144 276.23
事業資金へ編入金	55.13		
支出の部			
経常費へ編入金	3 130.22	翌年度へ繰越金	124 583.87
20周年記念事業費へ編入金	12 562.14	合 計	144 276.23
土木史編纂費へ編入金	4 000.00		

貸借対照表 (昭和9年12月31日現在)

貸方之部 (負債)

基 金	116 193.83	故中島銳治博士記念基金	3 503.39
内 譯		故阪田貞明君記念基金	1 250.66
古市公威兩博士還曆記念基金	19 298.68	故岡崎芳樹博士記念基金	2 001.93
沖野忠雄		故太田圓三君記念基金	2 330.99
故白石直治博士記念基金	16 649.76	故坂本雅雄君記念基金	514.17
故山崎鉉次郎博士記念基金	1 911.88	故川上浩二郎博士記念基金	1 028.98
原田貞介博士記念基金	3 411.45	關西支部維持金	22 000.00
廣井勇博士土木賞牌基金	530.83	基 金	19 803.66
廣井勇博士還曆記念基金	7 450.01	事 業 資 金	8 390.04
小川梅三郎博士還曆記念基金	1 207.31	翌年度へ繰越金	9 627.46
故富田保一郎博士記念基金	601.30	合 計	134 211.33
故石黒五十二博士記念基金	7 374.79		
故近藤虎五郎博士記念基金	4 825.09		

借方之部 (資産)

有 價 證 券	93 924.07	當 座 預 金	840.46
信 託 預 金	22 000.00	圖 書 及 備 品	4 271.06
郵 便 貯 金	4 879.07	會 費 未 收 入 金	4 967.96
振 替 貯 金	2 510.39	現 金	225.43
特別當座預金	592.89	合 計	134 211.33

財 産 目 録

貸借対照表資産之部と同一に付省略す。

特定期間中入會金免除の件

次で規則第3條第8條第11條に依る入會金の納付を特定期間中免除の件を諮り下記の通り全會一致にて決議せり。

本會は昭和 10 年 1 月 1 日より昭和 10 年 12 月末日迄に新に入會を承認せられたる會員、准員、學生員に對し土木學會規則の規定に拘らず特に入會金の納付を免除することを得るものとす。

役員改選

次で規則第 15 條に依り選舉せられたる役員改選の結果を下記の通り報告し出席會員の承認を得たり。

投票人員 744 名

會 長	當 選	649 票	青 山 士君
	次 點	16 票	大 河 戸 宗 治君
	同	11 票	草 間 偉君
	同	9 票	井 上 秀 二君
	同	5 票	丹 羽 鋤 彦君
	同	4 票	眞 島 健 三 郎君
	同	4 票	茂 庭 忠 次 郎君
	同	4 票	米 元 晋 一君
	同	3 票	黒 河 内 四 郎君

以下略す。

副 會 長	當 選	634 票	平 井 喜 久 松君
	次 點	14 票	物 部 長 穂君
	同	9 票	香 山 士君
	同	9 票	黒 河 内 四 郎君
	同	4 票	近 新 三 郎君
	同	4 票	辰 馬 鎌 藏君
	同	4 票	谷 口 三 郎君
	同	4 票	山 田 博 愛君
	同	3 票	樺 島 正 義君
	同	3 票	三 浦 七 郎君
	同	3 票	茂 庭 忠 次 郎君

以下略す。

常 議 員	當 選	640 票	藤 井 眞 透君
	同	631 票	小 野 基 樹君
	同	626 票	山 田 隆 二君
	同	602 票	堀 越 清 六君
	同	585 票	宮 長 平 作君
	同	577 票	内 田 莊 一君
	同	564 票	加 藤 貢君
	次 點	53 票	宮 本 武 之 輔君
	同	36 票	平 山 復 二 郎君

同	32 票	萩 原 俊 一君
同	23 票	井 上 隆 根君
同	19 票	山 崎 匡 輔君
同	18 票	金 子 源 一 郎君
同	18 票	河 口 協 介君
同	15 票	岩 澤 忠 恭君
同	15 票	辰 馬 鎌 藏君

以下略す。

次で久保田會長の講演（別項）あり午後 5 時 40 分閉會せり。

通常總會閉會後有志晚餐會を開催し出席會員 66 名にして午後 7 時盛會裡に散會せり（會報欄参照）。

役 員 會

第 1 回 役 員 會

開 催 日	昭和 10 年 1 月 11 日		
出 席 者	會 長	久 保 田 敬 一 君	
	副 會 長	米 元 晋 一 君	草 間 偉 君
	常 議 員	池 邊 稻 生 君	内 海 清 溫 君 衣 斐 清 香 君
		河 原 直 文 君	金 森 誠 之 君
		神 原 信 一 郎 君	鈴 木 雅 次 君
		永 田 民 也 君	
	常 議 員 兼 主 事	古 川 淳 三 君	
	常 議 員 兼 編 輯 長	田 中 豐 君	
	前 會 長	中 川 吉 造 君	那 波 光 雄 君 名 井 九 介 君
		眞 田 秀 吉 君	

決 議 並 に 報 告 事 項

決 議

1. 通常總會開催日時決定の件
昭和 10 年 2 月 15 日午後 5 時開會とす尙同日午後 4 時 30 分より臨時役員會を開くこととす。
2. 通常總會當日講演の件
會長久保田敬一君が 10 分位の講演を爲すこととす。
3. 土木學會關西支部昭和 10 年豫算は原案の通り承認せり。
4. 役員選舉投票の開票に關しては昭和 10 年 1 月 22 日頃の臨時役員會に於て決定することとす。
5. 委員會へ出席の爲地方より出張の旅費は本會目下の事情として支給せざることに申合せり。
6. 入退會の件

井上文世君外 19 名を會員に新井軌司君外 52 名を准員に小川博三君外 10 名を學生員として入會を承認し、尾崎義一君外 1 名の准員を會員に轉格承認せり。會員長谷川正五君外 1 名准員伊賀清紀君外 1 名は死亡せり。

報 告

7. 故名譽會員古市公威男墓所へ本會より寄贈の玉垣一式完成したるに就き米元副會長より報告せり。

臨 時 役 員 會

開催日	昭和 10 年 1 月 25 日		
出席者	會 長	久 保 田 敬 一 君	
	副 會 長	米 元 晋 一 君	草 間 偉 君
常 議 員	衣 斐 清 香 君	神 原 信 一 郎 君	
	金 森 誠 之 君	永 田 民 也 君	
常 議 員 兼 主 事	古 川 淳 三 君	岡 主 計	佐 藤 利 恭 君
同 編 輯 長	田 中 豊 君		
前 會 長	那 波 光 雄 君	名 井 九 介 君	

決 議 並 に 報 告 事 項

決 議

- 昭和 9 年度第 1 土木賞牌贈呈の件
編輯委員會に於て銜推薦に依る次の論文に對し贈呈することに決定せり。
土木學會誌第 20 卷第 10 號所載 “軌條の挫屈に就て” 會員 工學博士 堀越一三著
- 土木賞牌と同格のもの 3 種位贈呈に關しては財源を得て第 2 第 3 土木賞牌を贈呈することに申合せり。
- 昭和 9 年度事業報告
昭和 9 年度決算報告
昭和 9 年度關西支部事業及決算報告
以上 3 件は原案の通り承認せり。
- 勘定科目中の事業基金科目を昭和 9 年度決算より事業資金科目に変更し處理することとせり。
- 通常總會順序に關する件次の通り決定せり。

日 時 昭和 10 年 2 月 15 日午後 5 時

場 所 帝國鐵道協會

總會の順序

1. 事業報告
2. 決算報告
3. 特定期間中入會金免除の件
(本會は昭和 10 年 1 月 1 日より昭和 10 年 12 月末日までに新に入會を承認せられたる會員、准會員、學生員、に對し土木學會規則の規定に拘らず特に入會金の納付を免除することを得るものとす)
參照 規則第 3 條、第 8 條、第 11 條
4. 役員選舉報告並に紹介
5. 會 長 講 演

以 上

總會終了後同所に於て晩餐會を開催す會費金 3 圓

6. 役員選舉投票開票に關する件
2 月 6 日(水曜日)午後 5 時より本會々議室に於て開票を執行することとせり。
7. 英國 G.W.M. Boycott 氏より照會の潜水中の壓縮光候の防護にヘリウム及び酸素を使用する我國の實驗有無に關し編輯長に於て調査回答することとす。

報 告

8. 20周年記念廣告募集の結果を報告せり。

臨 時 役 員 會

開催日 昭和 10 年 2 月 6 日

出席者 會 長 久保田敬一君

副會長 米元晋一君 草間 偉君

常議員 神原信一郎君 金森誠之君 永田民也君

常議員兼主事 古川淳三君

昭和 10 年度役員選舉投票開票の件

昭和 10 年 1 月 25 日の臨時役員會に於て選任せられたる上記役員立會の下に 1 月 31 日までの投票を開票したる結果下記の通り當選せられたり。

投票人員 744 名

會 長	當 選	649 票	青 山 士君
	次 點	16 票	大 河 戸 宗 治君
	同	11 票	草 間 偉君
	同	9 票	井 上 秀 二君
	同	5 票	丹 羽 鋤 彦君
	同	4 票	眞 島 健 三 郎君
	同	4 票	茂 庭 忠 次 郎君
	同	4 票	米 元 晋 一君
	同	3 票	黒 河 内 四 郎君

以下略す。

副會長	當 選	634 票	平 井 喜 久 松君
	次 點	14 票	物 部 長 穂君
	同	9 票	青 山 士君
	同	9 票	黒 河 内 四 郎君
	同	4 票	近 新 三 郎君
	同	4 票	辰 馬 鎌 藏君
	同	4 票	谷 口 三 郎君
	同	4 票	山 田 博 愛君
	同	3 票	樺 島 正 義君
	同	3 票	三 浦 七 郎君
	同	3 票	茂 庭 忠 次 郎君

以下略す。

常 議 員	當 選	640 票	藤 井 眞 透君
	同	631 票	小 野 基 樹君
	同	626 票	山 田 隆 二君
	同	602 票	堀 越 清 六君
	同	585 票	宮 長 平 作君
	同	577 票	内 田 莊 一君
	同	564 票	加 藤 眞君
	次 點	53 票	宮 本 武 之 輔君

同	36 票	平 山 復 二 郎君
同	32 票	萩 原 俊 一君
同	23 票	井 上 隆 根君
同	19 票	山 崎 匡 輔君
同	18 票	金 子 源 一 郎君
同	18 票	河 口 協 介君
同	15 票	岩 澤 忠 恭君
同	15 票	辰 馬 鎌 藏君
		以 上

以下略す。

臨 時 役 員 會

開 催 日 昭 和 10 年 2 月 15 日

出 席 者 會 長 久 保 田 敬 一 君

副 會 長 草 間 偉 君

常 議 員 內 海 清 溫 君 衣 斐 清 香 君 神 原 信 一 郎 君

河 原 直 文 君 金 森 誠 之 君 永 田 民 也 君

野 口 寅 之 助 君

常 議 員 兼 主 事 古 川 淳 三 君

同 主 計 佐 藤 利 恭 君

同 編 輯 長 田 中 豐 君

前 會 長 野 村 龍 太 郎 君 田 邊 朔 郎 君 那 波 光 雄 君

名 井 九 介 君 眞 田 秀 吉 君

決 議 並 に 報 告 事 項

報 告

昭 和 10 年 度 役 員 當 選 報 告 の 件

昭 和 10 年 2 月 6 日 役 員 選 舉 投 票 を 開 票 し た る 結 果 を 報 告 し 全 員 こ れ を 承 認 せ り。

決 議

故 古 市 公 威 君 遺 族 より 寄 附 に 係 る 賞 牌 基 金 受 理 の 件

遺 族 古 市 六 三 君 より 金 500 圓 を 賞 牌 の 資 と し て 寄 附 あり た る を 以 て 本 會 は 之 れ を 故 古 市 公 威 博 士 土 木 賞 牌 基 金 と し て 受 理 す る こ と と す。

故 來 島 良 亮 君 賞 牌 基 金 受 理 の 件 は 遺 族 より 寄 附 申 出 で あ る ま で 保 留 す る こ と と せ り。

愛 知 縣 耕 地 整 理 協 會 より 照 會 に 係 る 會 員 杉 浦 翠 君 の 講 演 を 同 協 會 雜 誌 「 整 理 」 に 轉 載 の 件 は 著 者 の 承 認 を 得 れ ば 差 支 へ な き こ と と せ り。

編 輯 委 員 會

第 1 回 編 輯 委 員 會

開 催 日 昭 和 10 年 1 月 14 日

出 席 者 編 輯 長 田 中 豐 君

委 員 青 木 楠 男 君 龜 田 素 君 末 森 猛 雄 君 永 田 年 君

野 口 誠 君 福 田 武 雄 君 星 野 茂 樹 君 堀 越 一 三 君

協 議 事 項

1. 第 20 卷第 13 號所載講演に對しては討議を依頼せざる事に決定す。
2. 第 21 卷第 2 號に下記を追加す。

彙 報： 中部電力株式会社阿摺發電所工事概要

特許抄録： アスファルト舗装方法， 壁を構成する方法， 鑿孔装置， 地下穿孔機
遠心力利用鐵板入可塑管製造装置， 濾過装置， 急結性セメントの製造法

3. 第 21 卷第 3 號登載論文を下記の通り決定す。

論說報告： 水道鐵管破裂の復舊作業と所要時間に就て	會員 工學士 岩 崎 富 久
飲明路隧道コンクリート道床	會員 工學士 佐 藤 周 一 郎
跳水現象の實驗的考察	會員 今 野 彦 貞
討 議： 長柱の挫屈と之に及ぼす彈性橫抵抗の影響並に鐵道 軌道の張出に關する新考察	會員 工學博士 堀 越 一 三
同 上 著者	會員 工學博士 稻 田 隆
彙 報： 送電用鐵塔に對する風壓	會員 工學博士 太 刀 川 平 治
	准員 大 迫 貞 治
參考資料： 2 乘型減衰率を有する振動の計算法	(本 間 仁)
特殊の慣性能率に就て	(中 路 誠 三)
擴大する水路に於ける流れ	(最 上 武 雄)
正弦曲線の斷片からなる曲線列の Fourier 解析	(“)
肋拱の挫屈安全度に就て	(鈴 木 清 一)

4. 昭和 9 年度優秀論文に關する件

前回に於て優秀論文候補として選定せる 8 著者 8 論文に就て慎重審議の結果次の論文を昭和 9 年第 1 土木賞牌を贈呈すべき優秀論文として推薦し，役員會に下記の如く報告する事に決定す。

“ 昭和 9 年度第 1 土木賞牌を贈呈すべき優秀論文推薦の件

編輯委員會は昭和 9 年度第 1 土木賞牌を下記論文に贈呈するを適當と認む。

第 20 卷第 10 號所載 會員 工學博士 堀 越 一 三著 軌條の挫屈に就て”

5. 土木賞牌の同格のものを 3 種位贈呈し得る様次回役員會に提案する事。

第 2 回 編 輯 委 員 會

開 催 日 昭和 10 年 2 月 4 日

出 席 者 編輯長 田 中 豐君
委 員 青 木 楠 男君 龜 田 素君 福 田 武 雄君
星 野 茂 樹君 堀 越 一 三君

協 議 事 項

1. 第 21 卷第 1 號所載論說報告に對する討議依頼先決定之件
2. 第 21 卷第 1 號所載工事寫眞，論說報告，彙報，參考資料に對する謝禮決定之件
3. 第 21 卷第 3 號登載論文追加の件

第 21 卷第 3 號登載論文に下記を追加す。

討 議： 長柱の挫屈と之に及ぼす彈性橫抵抗の影響並に鐵道軌道の張出に關する新考察

會員 工學博士 堀 越 一 三
同 上 著者 會員 工學博士 稻 田 隆

- The Application of Theory of Influence Equations for Analysis
of Tall Building Frames 准員 工學士 横道 英雄
- 彙報: ウィリアム・エツチ・バー教授を弔す 會員 工學士 白石 多士良
- 養生法を異にしたセメント製品の耐壓強度に就て 大澤 禎郎
- 特許抄録: 水中場所詰工事法, 冷用アスファルト混合材の製造方法,
地下建造物の滲透性擁壁構成方法, 液掃装置, 地下室の換気装置,
鐵骨ラーメン式地下鐵道建設施工法, セメント製造法, 集積物撮取装置
- 参考資料: 滲透性地盤に堰堤を築く場合の滲透水に對する安定 (伊 藤 剛)
海岸潮流を利用する河口維持 (")
堰堤の薄片断面模型による應力及歪の研究 (岡 崎 三 吉)
彎曲率分配法の應力研究 (糸 川 一 郎)

4. 會誌ローマ字を日本式に改正に關する件

日本ローマ字會々員田部井賢氏より會誌のローマ字を日本式に改正照會ありたるにより協議の結果政府機關に於て正式に採用決定發表を待つて實施する豫定の旨返答する事とす。

5. 會務, 會報及廣告の紙質變更之件

會務, 會報及廣告の紙質を低下する事に就き協議の結果會務, 會報は黄色紙を使用する事とし, 廣告に關しては編輯委員會としては紙質低下差支なき旨決定せり。

維新以前日本土木史編纂委員會

第 24 回 委 員 會

開催日 (昭和 10 年 1 月 29 日)

出席者	副委員長	眞 田 秀 吉君		
	委 員	茂 庭 忠 次 郎君	牧 彦 七君	
		安 藝 杏 一君	板 井 申 生君	
		久 野 直君	小 川 織 三君	
		伴 宜君	那 波 光 雄君	
		樫 木 寛 之君		
	書記長	柴 原 龍 兒君		
	囑 託	渡 邊 俊 一君		

編纂に關し種々打合せを遂げ散會せり。

土木學會關西支部記事

○昭和 10 年 1 月 25 日午後 3 時より大阪市中央電氣俱樂部に於て第 1 回役員會を開催し支部長松島寛三郎君外 12 名出席下記事項を協議せり。

協 議 事 項

1. 昭和 9 年度決算の件
2. 第 5 回土木工學研究會精算の件
3. 積立金勘定の件

4. 土木用材總覽勘定の件
 5. 昭和 10 年收支豫算の件
 6. 昭和 9 年度事業報告の件
 7. 近藤前幹事長感謝状の件
- 以上原案の通り承認せり。

土木學會關西支部役員の改選

○昭和 10 年 1 月 25 日午後 4 時より大阪市中央電氣俱樂部に於て第 8 回關西支部大會を開催し支部長並に商議員半数改選の結果昭和 10 年度支部役員及び議員下記の如し。

支部長 (新任)	永井 專三君	商議員 (新任)	山内 喜之助君
商議員 (新任)	橋本 敬之君	商議員 (新任)	中川 幸太郎君
商議員 (新任)	佐藤 鼎君	商議員 (新任)	田淵 壽郎君
商議員 (新任)	原田 類助君	商議員 (新任)	與田 喜知藏君
商議員 (新任)	福留 並喜君	商議員 (新任)	杉谷 茂君
商議員 (新任)	吉岡 計之助君	商議員 (新任)	富田 惠四郎君
商議員 (新任)	近藤 泰夫君		
幹事長 (新任)	島崎 孝彦君		
庶務幹事	高橋 末治郎君		
會計幹事	柴田 辰之進君		

以 上

次で下記の講演ありたり。

風水害に鑑みたる大阪港の復興計畫に就て
歐米視察談

會 員 大阪市港灣部長 内山 新之助君
會 員 大阪府土木部長 三輪 周藏君

その他の記事

- 昭和 10 年 1 月 14 日役員改選に付き規則第 15 條に依る無記名連記式投票用紙及會員名簿を會員に發送せり。
- 昭和 10 年 1 月 20 日關西地方風水害調査委員會委員に沼田政矩君を依頼せり。
- 昭和 10 年 1 月 20 日土木學會誌第 20 卷第 12 號發行成規の手續を了し 1 月 21 日これを全會員に配布せり。
- 昭和 10 年 1 月 25 日土木學會誌第 21 卷第 1 號發行成規の手續を了し 1 月 26 日これを全會員に配布せり。
- 昭和 10 年 1 月 29 日通常總會の開催を會員に通知せり。
- 昭和 10 年 1 月 30 日維新以前日本土木史發刊に關し日本學術振興會へ補助金下附の申請をなせり。
- 昭和 10 年 1 月 11 日までに於て下記諸君を入會の手續を了し名簿に登録せり。

入 會 會 員

井上 文世君	高野 有君	内藤 範壽君	尾 錢 峯 夫君
高野 寅雄君	東 齋君	黒岩 敏治君	竹川 貞銳君
武川 龍千代君	佐久間 重良君	徳弘 澄重君	桃田 喜一君
住友 正夫君	中 宇 助君	本橋 理三郎君	鈴木 爲義君
中島 多利壽君	山 縣 大君	瀬能 三郎君	山 本 勝君

入 會 准 員

新井 軌 司君	岩井 正 一君	岡野 治 一君	飯田 藤 郎君
宇藤 貞 義君	扇 萬 吉君	井野 越 夫君	大島 太 郎君
加藤 益 治君	石津 一 磨君	大島 幸 治君	景元 涼君
上島 仁 左君	白川 秀 一君	畑 一 男君	葛山 德三 郎君
島倉 彦 平君	藤田 俊 一君	木村 勇君	杉山 信二 郎君
松田 國 男君	木村石 太 郎君	杉田 勝 衛君	松本 敏 夫君
城 戶 實君	住江 兼 美君	松本 六 郎君	工藤 學 而君
關 重 雄君	村內 定 治君	黒川 喜 一君	武田 義 明君
村本 順 治君	草部 一 來君	竹内 宮 竹君	森川 藤太 郎君
小林 雄二 郎君	辻口 利 雄君	山内 新之 助君	小櫻 高 義君
豊田 祐次 郎君	山田 元 治君	佐藤 貞 吉君	富山 種 男君
横尾 精一 郎君	酒井 哲 夫君	西村 義 一君	吉田 茂 雄君
齋藤 千代 雄君	能登 屋二 男君	脇 谷 亘君	畑 基君
渡邊 正 男君			

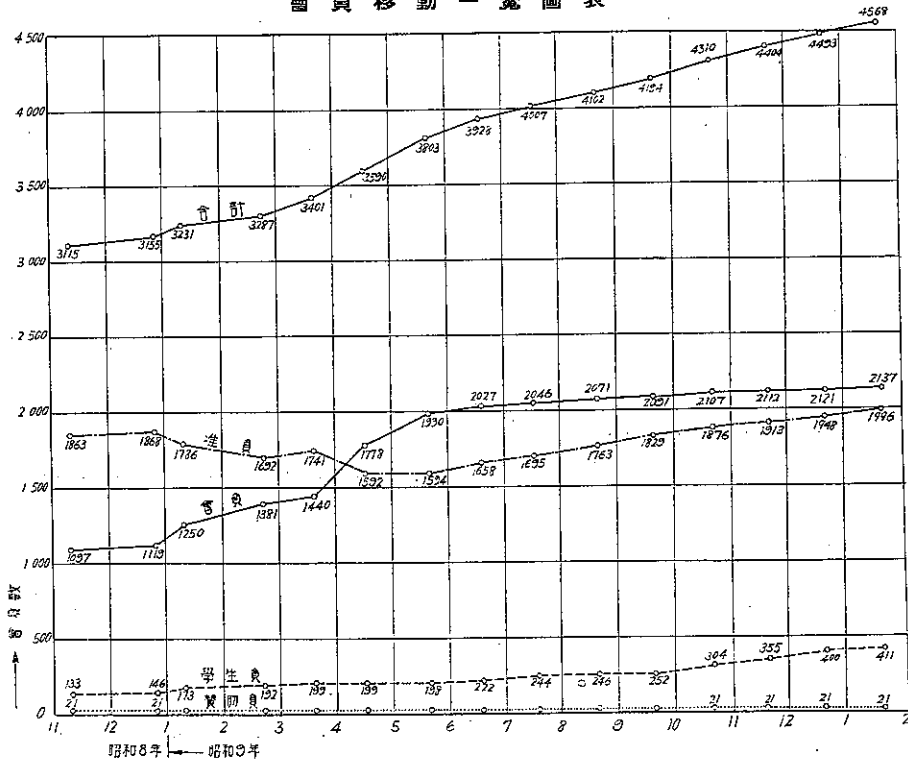
入 會 學 生 員

小川 博 三君	木村 一 二 三君	近藤 清 一君	神家 滿 武君
北住 利 雄君	佐藤 恒 二君	菅野 一君	北村 誠 一君
吉田 好 文君	木村 與 四 松君	小泉 寅 三君	

轉 格 會 員

尾崎 義 一君	齋藤 鼎君
---------	-------

會 員 移 動 一 覽 圖 表



○昭和 10 年 1 月中に於て交換又は寄贈を受けたる雑誌下記の如し。

セメント界彙報	第 322 號 1 月號	日本ポルトランドセメント同業會	日本建築士	第 16 卷第 1 號 10 年 1 月	日本建築士會
港 灣	第 13 卷第 1 號 10 年 1 月	港 灣 協 會	セメントコンクリート道路	No. 28	日本ポルトランドセメント同業會
三菱電機	第 10 卷第 10 號 9 年 12 月	三菱電機株式會社	實踐上水道	第 4 卷	コ ロ ナ 社
エンジニア	第 13 卷第 12 號 9 年 12 月	都市工學社	日本ニッケル時報	第 3 卷第 1 號 10 年 1 月	日本ニッケル情報局
土木建築雜誌	第 14 卷第 1 號 10 年 1 月	シ ビ ル 社	業務研究資料	第 22 卷 44・45 號 第 23 卷第 1・2 號	鐵道大臣官房研究所
工 政	第 177 號 10 年 1 月	工 政 會	ローマ字世界	昭和 10 年 1 月	日本ローマ字社
都市問題	第 20 卷第 1 號 10 年 1 月	東京市政調査會	工 學 彙 報	第 9 卷第 5 號 9 年 12 月	九州帝國大學工學部
浪速工業時報	第 38 卷 10 年 1 月	浪 速 工 業 會	帝國學士院紀事	第 10 卷第 10 號 9 年 12 月	帝國學士院
機械學會誌	第 38 卷第 213 號 10 年 1 月	機 械 學 會	工業現勢	第 4 卷第 1 號 10 年 1 月	東京工業大學工業調査部
C.B. Vol. 4 No. 1 Jan. 1935		ブラクテカル・エ ンデニヤリング	鐵道技術	第 9 卷第 2 號 10 年 2 月	鐵道技術社
Proceeding Vol. 60 No. 10		American Society of Civil Engineers	イエスベルセン 教授のローマ字 一般使用意見		日本ローマ字社
電氣學會誌	第 55 卷第 1 冊 第 558 號 10 年 1 月	電 氣 學 會	資 源	第 5 卷第 2 號 10 年 2 月	資 源 局
鑄 物	第 7 卷第 1 號 10 年 1 月	日本鑄物協會	建築雜誌	第 49 輯第 595 號 10 年 1 月	建 築 學 會
工 學	No. 245 Jan. 1935	東京工學社	日立評論	第 18 卷第 1 號 10 年 1 月	日立評論社
東京工業大學 學報	第 3 卷第 12 號 9 年 12 月	東京工業大學	セメント工業	昭和 10 年 2 月號	セメント工業社
儒教の泰西思想 に及ぼせる影響		啓 明 會	日本鑛業會誌	第 51 卷第 597 號 10 年 1 月	日 本 鑛 業 會
東京土木建築業 組合報	第 8 卷第 1 號 10 年 1 月	東京土木建築業組 合	日本動力協會會 報別刷	昭和 10 年 1 月	日本動力協會
會 務 彙 報	第 38 號 10 年 1 月	日本土木建築請負 業聯合會			

◎死亡會員

會 員 工學博士 長谷川正五君は 昭和 9 年 5 月逝去せられたり、本會は恭しく
哀悼の意を表す

會 員 工學博士 山形要助君は昭和 9 年 12 月 13 日逝去せられたり、本會は弔
辭を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表したり

准員伊賀清紀君は昭和 9 年 11 月准員霜田忠藏君は同年 12 月逝去せられたり。本
會は恭しく哀悼の意を表す



通常總會有志晚餐會記事

昭和 10 年 2 月 15 日通常總會終了後午後 5 時 50 分有志晚餐會が鐵道協會に於て開催せられた。新舊會長、新舊副會長を中央にはさみ左右の食卓に就く。晚餐會出席者 66 名。談笑の中に食事をとる事暫くデザート・コースに入つて今回留任の草間副會長立つて久保田前會長、米元前副會長及前常議員の御努力を讃ふる挨拶と、青山新會長、平井新副會長及び新常議員の方々を推戴する挨拶を爲し大要左の如く述べられた。“昭和 9 年は我が土木學會にとつては全く躍進の時でありました。名井前會長の時定款が改正せられ、殊に會費値下、晝間事務等の斷行が爲されたが、この實行は久保田前會長就任の一寸前より始められたもので、9 年度は値下された會費を以て従來より多くの種々の事業が行はれました。而もその間會員の數は約 3000 より約 4500 と云ふ躍進的の増加を示し、當初危まれた經常費收支も無事赤字を見ずに済む事が出來ました。その外昨年 10 月には 20 周年記念事業と云ふ大事業があり、記念事業としては論文抄録、土木學會略史の發刊を爲し、20 周年の祝典を上野精養軒に於て賑々しく開催せられた。之は前會長中川、那波、名井、眞田等の諸氏の御盡力の賜である事は勿論ではありますが、又實に久保田前會長の御努力の賜であります。つらつら考へて見ますに本會の創立は故古市先生の御盡力に依る所頗る大であります、その實際の創立の事に努力されたのは故廣井先生であります。創立以來 20 年を経てこの廣井博士に關係の深い久保田博士が會長となられて 20 周年の大事業を完成されたのも又意義深い事と考へるのであります。米元氏は 1 昨年より 2 箇年間本會の爲に會長を援けて御盡力されたのでありまして、その間事務員の更迭等があり、頗る多忙を極めたのでありますが、事務に不慣れた諸員を隔々まで御指導賜つたのであります。編輯長の田中豊氏は多忙の編輯事務の外に昨年は特に記念事業として立派な論文抄録を編纂されたのであります。その他前常議員の方々に並々な御盡力を得た事に對し厚く御禮申し上げる次第であります。

今回の役員改選に依つて青山會長、平井副會長、新常議員を迎へましたが、本年は更に昨年の後を承けて我土木學會には大事な時でありまして、新會長の下に努力して本會を益々隆盛にしたいと希ふ次第であります。今年の計畫は會員の數を増加する事にあります。少くも年 1200 人即ち月 100 人の計畫を以て進み度と思ひますから會員諸君に於ても充分御援助を賜りたい”と挨拶し、之に對し久保田前會長は今回退職の役員を代表して答禮の御挨拶あり、“一年の間會員諸君の御好意に對し謹んで御禮”を申された。次に青山新會長立たれ、“今回會長の榮職に就いたが、元より淺學菲才その上頗る多忙の身であつてこの重責を勤め得るとは信ぜられないのであります、會員各位、職員各位の御指導と御鞭撻に依り先驅者より始められ立つ土木學會の力を、量に於て質に於て益々良くし、本會の權威を一層良くしたい”との抱負を述べられた。

暫くして草間副會長指名の下にテーブルスピーチに移り、先づ田邊朔郎氏は“よき新會長、副會長を得た事を一同と共に御祝ひしたい”と述べ、小川織三氏は先刻の會長の御講演に對し社會問題と技術問題との相異に就て述べられた。次に原田碧氏は本會の隆盛に趨きつゝあるを讃へられた後、“毎月 1 回午餐會を開く等屢々會員の會合して親睦を厚くする機會を造つて戴きたい”との希望を述べられ、代つて宮長平作氏が今回常議員に當選した禮を述べられた。次に平山復二郎氏立ち、先刻の會長講演に對し“會長に於てこの問題に就て述べられた事は誠に意義ある事で、我々及び我々より若い連中はこの問題を常に論じてをるのであつて我々より若い連中が今の總會に多數列席してをれば嘸喝采をした事と思ふ。滿洲に於てもこの問題は團結してやつてをる由で、この問題

は内地の如く硬い殻をかぶつて行くか或は積極的に出て行くかありますが、滿洲にあつては直木氏が非常に苦しい立場に立たれてをる由であつて、我が土木學會に於ても今後この方面に力を入れて行つてはどうかと思ふ”との希望を述べられた。次に晚餐會列席者中では若い方の宮本武之輔氏が指名され、誠に過激な言葉を使ふ様であるがと前提して大要次の如く述べられた。“私は若い時分に 2, 3 度總會に出たが私と同年輩程度の者は極めて少く、若い者は斯様な席には出るべきものでないのかと思つた。2, 3 年前編輯委員となり委員會では常に如何にすれば學會を盛にし得るかと議論して時間を長びかせた事があつた。其の後振興委員會の末席をけがす事となり振興委員會では思ひ切つた振興策が講ぜられて會員が 3000 から 4500 になつたのは正に劃期的の事業でありました。この波に乗り本會が益々隆盛にならん事を希ふ次第であります。只非常に寂しいのは此の總會の席に若い連中の少い状態が私が若い時代に経験したと同じ状態で續けられておる事であります。會を盛にするには老大家の發育の止つた細胞を集めるだけでなく、之に新しい發育しつゝある細胞を附け加へねばならない。この意味に於て若い者が斯様な會合に出て盛に意見を述べられたいと思ふ。新役員の方に御願ひする次第であります。”と述べられ、之で指名のテーブルスピーチは終つたのであるが、岡崎正伸氏はその後を受けて“從來の會長は概して白髪の方が多かつた様であります。今度の新會長、副會長は皆御覽の通りの黒髪でありまして、之は土木學會の若さを物語るもので誠に力強い次第である”と述べ滿場の喝采を拍した。斯くて最後に岡胤信氏の發言の下に土木學會の萬歳を三唱し、杯を擧げて本會の將來を祝し盛會裡に通常總會晚餐會を終了した。時に 8 時半であつた。思ふに今日の總會は久保田前會長より別掲の如き“土木技術者の社會的地位”と云ふ技術者の常に論議してをる問題に就て御講演を戴き、之に呼應して晚餐會の席では頗る熱のあるテーブルスピーチが爲され學會の爲大いに氣焔を吐かれた事は誠に愉快な事であつた。土木學會の會合に若い者が列席してはならぬと云ふ規則はないのであるから宮本博士の述べられた様に今後の會合には若い技術者が多數列席されて大いに若い所の氣焔を吐かれる事を希ふ次第である。

雑誌閲覧に就ての會告

別記の寄贈並に交換雑誌は本會事務所に備付置候間御希望の向は
下記時間内御随意に御閲覧相成度候。

閱 覧 時 間

日曜日及祭日休、土曜日自午前9時至午後4時、其他自午前9時至午後8時。
但し役員會、委員會等開催の日は御斷り致すこと有之哉も計られず候間豫め御承知置被
下度候。

廣 告 料

普通廣告	1回1頁	35圓	1回半頁	20圓
指定廣告	裏表紙3面對向 及廣告初頁	1回1頁	40圓	
	裏表紙3面	1回1頁	70圓	
	色アート	1回1頁	60圓	

- 指定廣告は凡て1箇年繼續申込のものに限り取扱ふものとす
- 會員自身の廣告に對して總て上記料金の割引とす
- 同一廣告の連續掲載申込に對しては1年4回以上1割引とす
- 廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

DOBOKU-GAKKWAISHI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXI, NO. 2, FEBRUARY, 1935.

CONTENTS.

	Page
Proceedings of the Society.	11
Presidential Address.	
On the Social Position of Engineers.	
<i>By Keiiti Kubota, Dr. Eng., President.</i>	163
Papers.	
On the Discharge in Cast Iron pipes.	
<i>By Tokusaburo Ikeda, C.E., Member.</i>	167
On Secondary Stress—Calculation of Trusses by the Slope Distribution Method.	
<i>By Hakuhei Takabeya, Dr. Eng., Member.</i>	229
New Working System adopted for the Highway Crossing Watchmen on the Nishinari Line, Osaka.	
<i>By Jiro Okabe, C.E., Member.</i>	237
The First Welded Railway Bridge in Japan.	
<i>By Ryokiti Amano, C.E., Assoc. Member.</i>	251
Treatise on the Special Bents (Part III).	
<i>By Hideo Yokomiti, C.E., Assoc. Member.</i>	283
Discussions.	305
Notes on Matters of Interest.	311
Patent News.	329
Abstracts of Selected Articles.	331

OFFICE

No. 6, 3-CHOME, MARUNOUCHI, KOJIMACHI-KU, TOKYO.